オトカ前旗での２期事業を開始

『黄河の森緑化ネットワーク』事務局長　矢野正行

一昨年まで６年間行って来たオトカ前旗城川鎮での砂漠化土地緑化事業に続き,昨年からは約６０km 離れた昂素鎮での緑化事業に着手している。オトカ前旗では過放牧や生活用材としての樹木の過伐採、それに乾燥が重なり、草原の砂漠化が急拡大している。

今回の昂素鎮の植樹地は、砂漠化は大規模であるが、平坦地が多く植樹作業は比較的容易に行えるようである。また、今回は今まで植樹してきた沙柳に代え檸条を植樹しているが、発育も良く現地に合っているようである。

オトカ前旗では、林業局を中心に国家林業局などとタイアップし、砂漠化土地の緑化事業を推進しているが、砂漠化を食い止め、緑を拡大して行くところまでは達していない。緑化の達成には林業局の努力はもちろん必要であるが、やはり市民レベルの緑化運動が不可欠であると考える。

８月の生育状況

内モンゴルのオトカ前旗のある地域は、降雨量の約３倍の水分が蒸発する乾燥地帯で、住民の多くは放牧で生活を立てており、生活は決して裕福ではない。このような状況で住民の緑化活動を定着させるのは容易ではない。そこへ我々がはるばる日本から砂漠化を食い止めるため、緑化植樹にやって来る事は、住民に対し緑化の必要性を説き、まだ一部住民ではあるが緑化活動の啓発に大いに役立っているようである。

また、オトカ前旗では殆ど国際交流を行うことは無いようで、我々『黄河の森緑化ネットワーク』との交流が唯一のようである。地球環境保護といった大きな目標に目を向けさせ、少しでも環境改善に取り組むことの重要性を認識して貰うためにも、今後も継続して緑化植樹に取り組む事が大切と考えている。